

氏名	清水 保彦
学位の種類	博士 (医学)
学位記番号	乙第318号
学位授与年月日	平成28年7月13日
審査委員	主査 教授 原田 守
	副査 教授 森田 栄伸
	副査 教授 中村 守彦

論文審査の結果の要旨

申請者は、アレルギー性鼻炎に対する漢方製剤補中益気湯 Bu-zhong-yi-qi-tang (HOT) の効果を、マウス由来マクロファージ様細胞株 Raw264.7細胞、および卵白アルブミン (ovalbumin: OVA) を抗原としたマウスアレルギー性鼻炎モデルを用いて検討した。In vitro の実験系で、Raw264.7細胞をHOTで前処置した場合には、lipopolysaccharide (LPS) 刺激による interleukin (IL)-12 産生が高まった。RT-PCR法の解析では、HOTによる前処置はRaw264.7細胞でのToll-like receptor 4 (TLR4) の mRNAの発現を高めた。さらに、TLR4伝達シグナルが正常な野生型C3H/HeNマウスの腹腔マクロファージを in vitroでLPSにより刺激した場合、HOTの添加でIL-12の産生が高まったが、TLR4伝達シグナルの低下しているC3H/HeJ マウスのマクロファージではIL-12の増加を認めなかった。さらに、OVA誘発マウスアレルギー性鼻炎モデルでHOTの経口投与の効果を検討した。C3H/HeNマウスアレルギー性鼻炎モデルでは、OVA感作により血清中OVA特異的IgEとIgG1や鼻アレルギー症状・鼻粘膜組織でのIL-5や好酸球浸潤の増加を認めたが、HOTを経口投与させたマウスではこれらの増加が抑制された。このHOTの抑制効果は、C3H/HeJマウスでは観察されなかった。以上の結果から、HOTは、TLR4分子を介して鼻アレルギーを抑制する可能性が示された。本研究は、漢方製剤による鼻アレルギー治療の可能性を示したものであり、臨床的意義も高く学位授与に値すると判断した。